



学校だより 第11号

木城町立みどりの杜木城学園

2月 木の苗の植



令和6年 2月16日(金)
文責：佐藤 健一郎

日頃の給食に感謝を込めて



1月23日の朝、全校児童生徒が体育館に集まり、給食感謝集会を行いました。担当教師から、給食の食材として、木城町で生産されたものが多く使われていることや、給食費が税金によってまかなわれていることなどの説明がありました。その後、給食委員会の子どもたちが「赤・黄・緑」の食品についてクイズを交えながら楽しく説明してくれました。最後に、給食センターの内野宮さんに、給食委員から感謝状を渡し、感謝の気持ちを伝えました。また、給食にかかわるたくさんの方々に給食委員会の代表生徒が各学級で作った感謝のメッセージをお届けしました。今後も給食指導を通して、食に関する知識や感謝お気持ちを育んでまいります。



ふるさと納税教室 ～1月19日～ ￥￥￥￥￥

5年生は、キータムの時間に木城町役場まちづくり推進課の方を講師としてお招きし、ふるさと納税の仕組みについて説明を受けたり、木城町の返礼品や寄付額などについてクイズ形式で楽しく、学習したりしました。この授業を通して、自分たちが学習した和牛や豚肉が返礼品になっていることや、「絵本」が返礼品の上位入っていることを知り、木城町の特産品や産業などについてより詳しく知る機会になりました。今回の学習をきっかけに、ふるさと木城町に対する関心が高まったのではないかと考えます。さらに関心をもってもらえると嬉しいです。



戦争体験講和 ～2月4日～



6年生は、戦争を体験された方から貴重なお話を伺う機会を得ました。お話をしてくださったのは、小学3年生まで木城小学校に通っておられた西村次郎様です。講話の中で、当時の木城町の様子や人々の暮らしぶり、



空襲の体験談など話していただきました。話を聞いた子どもたちは、当たり前の日常が送れることのありがたさを感じていたようです。今回の講和を通して、戦争が家族や社会に与える負担や苦しみ、平和の尊さについて気付かされるとともに、未来に対する希望を抱くことの大切さを学んだようでした。



命の重さを実感！ ～1月31日・2月1日（火・水）～

第8学年では養護教諭の清先生による性教育が行われました。はじめに、命が誕生するまでの基本的な知識についての学習をした後、グループに分かれて妊婦体験を実施しました。階段の上り下りや、靴下をはくことなど、普段何気なくできている動作も、妊娠用のベルトを装着し、通常の動作が制限されることで、うまくできなくなるなど、妊娠中の女性の立場や気持ちをより現実的に知ることができました。この体験を通して、生徒たちは妊娠中の女性に対する理解と共感を深めるとともに、将来のパートナーシップや親子関係についても考えるきっかけとなりました。今回の妊婦体験を通して得られた貴重な学びを生かし、生徒たちはより理解ある社会の一員として成長してほしいと思います。



野球しようぜ！～1月17日～



ニュースでも取り上げられ話題となっている大谷翔平選手からのグローブのプレゼントが届きました。グローブには、大谷選手のサインが添えられており、メッセージカードには「野球しようぜ！」の言葉

が書かれていました。送られてきた

3つのうち、1つは全校児童生徒が見られるようにメモリアルコーナーに飾り、残りの2つを低学年から順に回して一人一人が実際にグローブに触れるようにしました。子どもたちはとてもうれしそうに、グローブを触ったり、自分の手にはめたりしていました。今後は体育の授業などで、活用させていただきます。



耕心コーナー 「春の訪れを感じながら・・・」

朝夕はまだ肌寒い日もありますが、日中の暖かさや梅の花等の開花から、確実に春が近づいていることを感じられるようになってきました。

学校では、九年生の高校入試をはじめ、各学年それぞれがまとめの時期に入ってきました。子ども達の様子を見てみると、四月に比べてどの学年の子ども達も確実に成長しているのを感じます。昔から、「二月逃げ月、三月去る月」と言われ、この時期は特に時が過ぎるのを早く感じます。各学年ともまとめにしっかりと取り組ませ進級・進学させたいと思います。

そんなことを考えている時、手に取った本の中の文章にはつとさせられました。

世の中、手取り足取り、至れり尽くせりがもてはやされる。しかし、人を育てる上で、至れり尽くせりは、人を軟弱にするだけだ。これを世に、「過保護」という。まさしく人をダメにする近道である。

「不便、不自由、不親切」とは、「何も与えません。すべて自分で考え、自分で苦労し、苦労しながら何かをつかんでください。」といった、本当の親心である。人は苦労しなければ、本当に大事なことは身につかない。苦労させるには与えないことだ。 出典…上甲晃「人生の合言葉」

私達大人もこのことは十分分かっていながらも、よくれと思つて手をかけ過ぎていることもあるのではないのでしょうか。子ども達の成長の過程には、いろいろな壁が出てきますが、乗り越えた先には必ず新しい道（可能性）が広がります。乗り越えさせるための支援について、改めて考えさせられた文章でした。